

洋光台エリア会議

洋光台地区では、平成23年度に行政と地域住民とURが共同で、持続可能な住宅地のまちづくり検討(多世代近居の実現に向けた洋光台ケーススタディ検討会)を行っており、これを引き継ぐ形で、平成24年5月に「洋光台エリア会議」がスタートしました。

エリア会議は「地域の課題解決の担い手となるプラットフォームの構築」「複合的な課題に取り組む活動の形成・波及、新たな組織の参画などによるエリアの活性化」「行政からボランティア組織まで様々な団体を連鎖的につなげる」を目的として掲げ、URと地域のまちづくり組織・神奈川県・横浜市・磯子区、まちづくり分野の有識者が連携して、洋光台地域の良好な社会インフラを有効活用し、まちの価値を維持・向上させ、次世代に引き継ぐため議論を進めています。

- 具体的な取組内容
- a 洋光台駅前商店街への地域活動拠点の設置に向けた検討

b 地域北部における福祉及び多世代交流拠点に関する検討

c 地域が必要とする新たな移動手段(モビリティ)導入の検討

d 円滑な地域内住み替えに向けた検討

e H25以降の洋光台エリア会議の体制及び対象エリアの検討

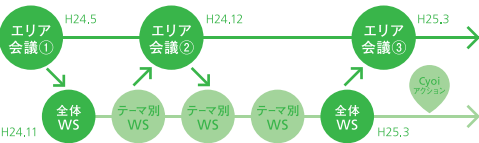
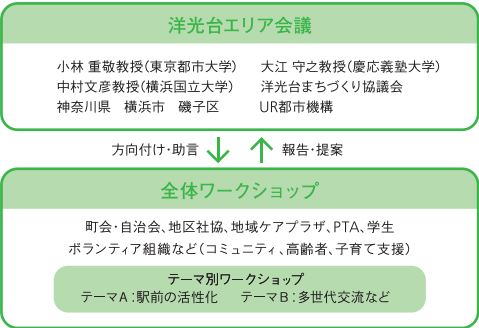
f 中層住棟屋上等への太陽光パネル設置・エネルギー活用に向けた検討

g 基礎調査(事業効果指標検討)

また、様々な取り組みを検討するにあたって、地域にお住まいの方、地域で活動される方々の意見や力をまちづくりに活かすための「ワークショップ」を実施、ここから、新たなネットワーク形成や、具体的な活動「Cyo!アクション」が始まっています。

エリア会議と連携して、神奈川県は「多世代近居のまちづくり」検討やまちづくりの担い手養成、空き店舗を活用した多世代交流拠点の試行、住まいの相談会・講演会を実施、また、横浜市は環境未来都市の対象地区・モデル地区として洋光台を選定し、市内の高校生を主役とした「まちづくり次世代育成プロジェクト」などの活動を進めています。

エリア会議構成・スケジュール



洋光台エリア会議への期待

- 小林重敬委員(座長)
- 東京都市大学 都市生活学部教授
専門分野: 都市計画・都市・住宅政策

洋光台は既にこの地域が持っている課題についての認識があり、有意な資源についても認識があるので、住民・行政・関係者が意識を共有し、具体的な発想・活動するためのこれからの仕組みづくりを議論する段階に入っている。住民とURがいっしょにテーマを絞り、行政から協力を得て活動をしていく方向で動きたい。

駅前の活性化のためには、洋光台駅がモビリティの拠点であるという視点も必要。また高齢社会のまちづくりでは福祉を考えないわけにはいかないし、防犯もこれから大きなテーマとなってくる。コミュニティ活動を継続的に行うには支える組織と財源が必要。財源は簡単ではないが、若い人が継続的に街に留まり関わる仕組みをつくり、毎年少しずつ街が変わっていく、次はどういう展開があるのかと興味を持ってもらう、新しいものが次々出てくる仕掛けをつくるのが大事だ。

- 大江守之委員
- 慶應義塾大学 総合政策学部教授
専門分野: 人口・家族研究、都市・住宅政策

住民が個人やグループで様々な活動を行う中から発見される、洋光台での暮らしのニーズを関係主体で共有し、その対応に関する協働の仕方や役割の担い方を話し合い、実施に移していく、そしてまた考えるという新しいスタイルが実現できるとよい。そうした持続的な話し合いやトライアルを受け止める場として、また立場を超えてフラットなコミュニケーションがとれる場として、アーバンデザインセンターのコミュニティ版、コミュニティデザインセンター(日常はカフェ的な空間)を数年くらいの間、置くことも一つのアイデアだと思う。駅前空間については、何かをやれば一気に活性化するというのではなく、多様なコミュニケーションを重ねるなかで、少しずつ新しい活動が始まり、バラエティが出てくるのが最初の段階ではないか。

洋光台アルバム

洋光台は、JR根岸線の建設に合わせて、昭和41年から施行された区画整理事業により誕生しました。横浜駅から30分圏内に位置し、駅を中心にほぼ1km圏内にコンパクトにまとまったまちです。地区内には、丘陵地を造成して生まれた坂や階段が多く、また、UR賃貸住宅・公団分譲団地、公営住宅等の団地群と、戸建て住宅地がほぼ半分の構成になっており、それらはまちの特徴になっています。



- 中村文彦委員
- 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院教授
専門分野: 都市交通計画・都市基盤

地域にとってどういう移動の方法がいいのか、そのために地域住民が何ができるのか、地域から発案することが大事。また交通は手段であって、その先に日常の活動がある。その活動を支え実現するのが交通の役割。外出頻度が上がる、それによって健康的な生活が送れるなど、そういうことまで含めた議論が必要だ。

- 三上勇夫委員
- 洋光台連合自治町内会会長
洋光台まちづくり協議会会長

URには当時としては先進的なまちを作っていただったので、次は持続可能なまちに向けて、もう一段ギアを入れてもらえるようお願いしたい。『地域が必要とする新たな移動手段』は大きな視点で考えたい。65〜70歳ぐらいの元気な方々が地域で活動できるものがないかないつも考えている。交流サロン等もやりたい人はいるが家賃が高い。潜在的なパワーはある。ちょっとの配慮でコミュニティ系の活動に一気に火がつくと思う。難しいとは思いますが、洋光台で何ができるか本当に考えなければいけない。今後も出来るだけさまざまな地域住民の発言の機会をつくってもらいたい。



洋光台エリア会議

洋光台団地諸元

【住 所】	神奈川県横浜市磯子区洋光台ほか
【面 積】	約207.5ha(洋光台土地区画整理事業区域)
【人口・世帯数】	約2.5万人・約1.1万世帯(H22年国勢調査)
	UR賃貸住宅 計3,350戸
	旧公団分譲住宅 約1,500戸
	市営・県営住宅 約1,500戸
	民間集合住宅 約2,200戸
	戸建て住宅 約2,700戸

RENAISSANCE in 洋光台02	
編集・発行	独立行政法人都市再生機構 神奈川地域支社 団地活性化推進本部、住宅経営部
制 作	(株)ディーワーク
制作協力	OKデザイン
発行日	2013年7月31日

本出版物の一部または全部を無断で複写、複製、あるいは転載することを禁じます



WORKSHOP

まちづくりワークショップ

「洋光台エリア会議」の検討・取り組みに際して、地域の声と力をまちづくりに活かすために開催するのが「まちづくりワークショップ」。

様々な立場・年代の方が集まって、意見交換や情報共有、ネットワーク構築に繋げる「全体ワークショップ」と、具体的な取り組みについて話し合う「テーマ別ワークショップ」を行っています。

ワークショップで検討した内容は、洋光台エリア会議に報告・提案し、有識者からの方向づけ・助言などを受け、さらにワークショップに反映しながら具体的な取り組みを進めています。

全体ワークショップ



1 洋光台ってどんなところ？ これから取り組みたいことは？

第1回=H24.11

まちの良さについて「整然とした・ゆったり・落ち着いた・静かなまち」「駅を中心とした利便性」「子育て環境」「大小様々な公園・自然が豊か」「地域の人々」「文化がある」という意見が、まちの課題については「駅前・地域内交通」「ニーズ・まちに合わない住宅」「賑わいが無い」「高齢者居場所がない」「子育て世帯向け店舗がない」「コミュニティの弱体化」等の意見が出されました。

2 エリア会議、テーマ別ワークショップ等の 報告、「洋光台エンジン」について

第2回=H25.3

ワークショップでのさまざまな意見から「つながり」の大切さが見えてきました。その「つながり」をみんなでも共有するためのキーワードとして「縁」を中心としたさまざまな「えん（援・宴・演・円・園）」が登場。これらの「えん」を動かすのは人であること、ワークショップも話し合いに加え、実践も動き出したことから、今後のまちづくりを進めるイメージを、自ら「えん」を動かしていく人たちを意味する「洋光台エンジン（えんじん）」という言葉にまとめました。



テーマA [駅前活性化]

1 駅前地区のまちあるき 昔のまち・いまのまち、いいところ・困ったところ

■昔のこと・活・気・コミュニティ・賑わいがあった／子どもの声／元気な商店街・etc.
■現在のいいところ・広場のイベントがたき／魅力的な飲食店／開放感がいい／イベント風景や賑わいがいい／ベンチが多い／etc.
■現在の困ったところ・駅前広場が不十分／暗い、グレーな雰囲気／整然としすぎて、緑が少なく／若者が遊ぶ場所・手段がなく、みんな駅に吸い込まれていく／ベンチで過ごす高齢者／駐輪・駐車場がない／歩道は広いが自転車専用道路がない／駅前にコンビニがなく不便／広場に屋根がなく、雨でイベントが中止に／夕市復活／水復活／マナーの悪さで仲違いも、譲り合いで良い雰囲気でも暮らしていけたら／イベント時は賑わいが普段は誰もいない／etc.

いいところの発見もあつたが、駅前の機能・環境面の課題指摘や改善提案も数多く出された。

2 駅前でやってみたいこと、コンセプト 20年後の洋光台を想像してみる

■コンセプト・ちょっと見に行こう／たすけあう街づくり／明るく美しく／楽しく／おしゃれであたたかい場／変わって欲しいもの・静かな品の良さ／ゆとりある雰囲気／明るく和やかな街／つながり／etc.
■変わって欲しいもの・多世代交流のなご／街の色／etc.
■新たに欲しいもの・顔の見える場／人がとどまる、屋根のある場／企画での交流・移動・コミュニティ図書館／イベント／噴水／源泉／せせらぎ公園／etc.
■やってみたいこと・相談、情報交換／居場所、たまり場、コミュニティカフェ／多世代交流／etc.

イベント・交流・見守り等のコミュニティ活動、交通機能の改善、省エネ、商店の活性化など、テーマは盛りだくさん。ワークショップで全て考えるのは無理…。今回のメンバーに適したテーマは？

3 目指したい将来像を一言で表すと？ ワークショップで取り組むテーマを絞り込む

■将来像を一言で：あたたかく／楽しく！／顔見知りの街／すべての人がやさしくしあえる街／まちあふれる街／コミュニティ商店街／etc.
■ワークショップでのテーマ：洋光台らしい雰囲気／よどむ・集まる・留まる／『サンマルコ広場』欧風のシンボルを作ろう！／お年寄りが美しく見えるような環境、しかけ／etc.
■テーマ実現のための具体案：シンボル／噴水／せせらぎ／洋光台らしい樹と花／音風景／ハイカラ／きれいなベンチ／パラス／発表の場／飲食の場（夜も）／コミュニティカフェ／行政のランチ機能／スポーツ／広場に畑・体験型の工房／URの工夫／お金／政治／etc.

「人の雰囲気」が共通の将来像？具体的なイメージや、「洋光台らしさ」を言葉だけでは表現しにくい、具体的な場所を決めてアイデアを出す中から、答えが見えてくるのでは。

洋光台のいろんな良さと課題が見えたワークショップ。まちをより良くするために、「駅前の活性化」と「コミュニティ活性化・多世代交流」をテーマ別ワークショップで検討することになりました。

洋光台への想い、意欲がとて高い参加者が多い。若者との交流には、こちらから若者に近づく積極性が必要だ！(行動を知る、声をかける)

若者が自由に行動できる場をつくり一緒に行動する。洋光台らしさ、魅力をつくり若者を引きこむ、などの意見が出された。自由に行動できる場も様々、洋光台にどんな魅力があれば？

すぐに実践できそうな多世代交流のアイデアが出された。順番を決めてプログラムを考え、実践しながら、メンバー全員が交流の仕方を考えていく必要がありそう。

■今、実行できる多世代交流：○「まちの人探検」子どもの意見を聞く／一緒に何を考えるか考える／飲み会で若者と友達に／小～中～高～先生～高齢者と友達に／子どもの意見を聞く／etc.
○「まちの小図書館（オモチャも）」／本、限定したオモチャをちよいちゃん集め、お店等にそれぞれ置かせてもらって、広場や公園で読むとか、イベントを実施／etc.
○「イベント開催」若者に話を聞く／きかけアイテムとして洋光台各所地図作り＋名所（桜、酒処）めぐり／洋光台探検／子育て世帯のママ達が集まる場／のど自慢／ファッションショー／ダンス／スポーツ／etc.

ちよいCyoaiアクション 【イベント】 桜マップづくり

ちよいとしたことを
ちよいちよいやる

1 若者と交流する方法は？

2 若者と交流できる、会話出来る 環境はどういう場所・活動？

3 ワークショップのメンバーで、 今、実行できる多世代交流を考える

テーマB [多世代交流・コミュニティの活性化]

ワークショップとCyoaiアクションは今後も続きます。